

泉佐野市

Izumisano City

| | | |
|---------|--------|-------|
| 総人口 | 在留外国人数 | 比率 |
| 99,857人 | 4,274人 | 4.28% |

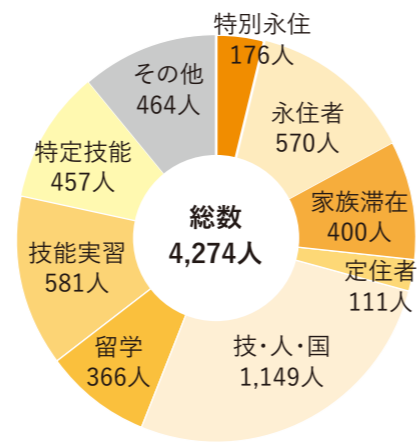
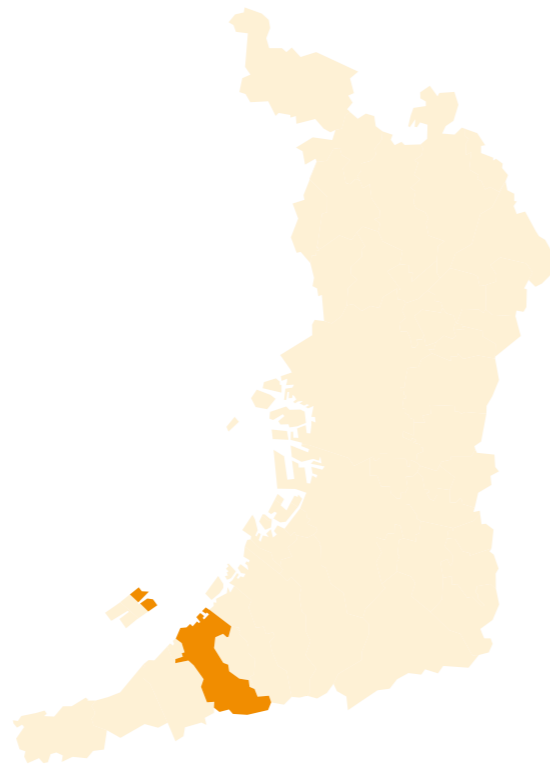
大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置する泉佐野市は、背後に和泉山脈を擁し、美しい山河と緑にあふれた恵まれた自然環境にあります。面積は約56.51平方キロメートル、人口は約10万人(約5万世帯)のまちです。

古くから商業・工業・農業・漁業がバランスよく栄えてきましたが、関西国際空港の開港に伴い、現在は商業やサービス業も盛んになっています。

空港のインパクトを最大限に活かし、世界と日本を結ぶ玄関都市として、国際都市を目指したまちづくりに取り組んでいます。

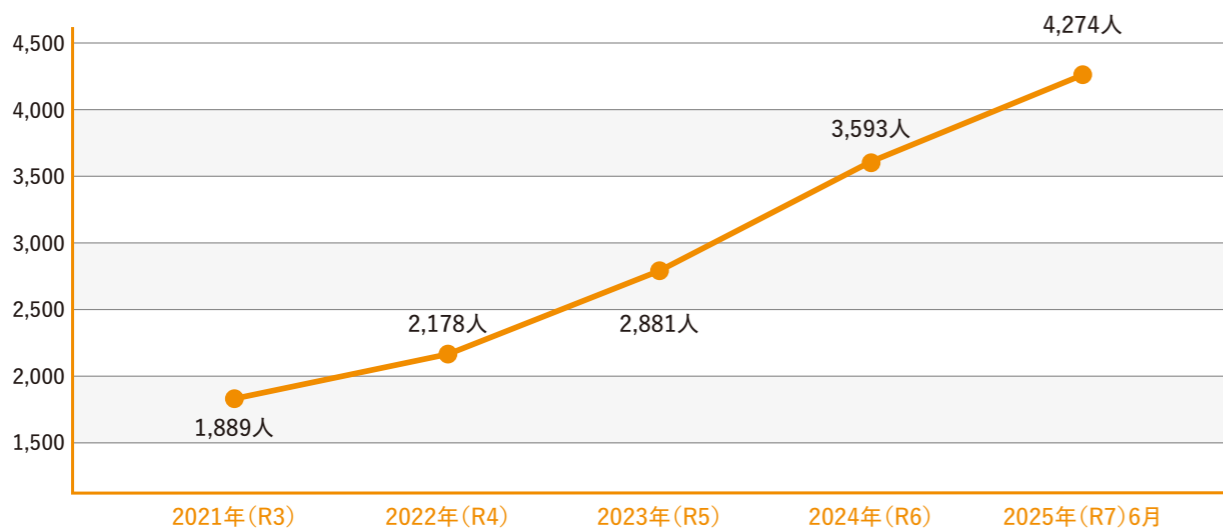
泉佐野市の特徴

関西国際空港のお膝元という地理的特性から、空港関連や宿泊およびサービス業などに従事する就労目的の在留資格「技・人・国」(技術・人文知識・国際業務)などを持つ層が際立って多いのが最大の特徴です。



法務省在留外国人統計 2025年6月より

外国人数推移データ



法務省在留外国人統計 2025年6月より

01 福祉

重層的支援体制整備事業

健康福祉部 地域共生推進課、社会福祉法人 泉佐野社会福祉協議会

健康福祉部 地域共生推進課

解決困難な課題への庁内連携支援(重層会議)

2020(令和2)年10月から「いずみさの みんなの絆プラン(第3次地域福祉計画)」に沿って、あらゆる世代や対象に対応する包括的な相談支援体制の充実に努めています。制度分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることをめざし、次の2点の重点項目を設定しています。

- ・包括的支援体制の整備(丸ごと化)
- ・地域課題解決のための仕組みづくり(我が事化)

この制度的な変更に合わせて予算を整備し、2025(令和7)年度から重層的支援体制整備事業を開始、4つの中学校区域で社会福祉協議会を含め、各区域内にある社会福祉法人に地域型包括支援センターの運営を委託し相談窓口としています。高齢者だけでなく、生活困窮者や障害者、母子相談などをワンストップで受け、解決困難な多分野にわたる問題は庁内で「重層会議」にかけ、市の職員が支援コーディネーターとして伴走します。立ち上げ間もないので少人数体制ですが、困難事例の解決に向け日々奮闘しています。

社会福祉法人 泉佐野市社会福祉協議会

企画から協働! 外国人住民の地域参画

コロナ禍を期に社会福祉協議会に外国人の相談者が増えました。そこでica(P.41参照)と協働して在住外国人に対して相談会や食料配布をおこないました。その中からボランティア活動に興味を持ち、ボランティアの交流サロンに定期的に参加されるようになった方もいます。さまざまな関係機関との連携も進み、支援の輪が広がりました。また、社会福祉協議会主催のポッチャ大会では、外国人・障害のある方を含む混成チームで毎年、インクルーシブな交流機会となっています。

社会福祉法人
泉佐野市社会福祉協議会



02 多文化

多文化共生社会の推進

市民協働部 自治振興課、特定非営利活動法人 泉佐野地球交流協会(ica)

市民協働部 自治振興課

国際都市宣言

2017(平成29)年の「国際都市宣言」に基づき、市民や事業者、各種関係団体と連携を図りながら国際交流活動を深め、文化や言語、宗教、生活習慣などの違いを互いに理解し、尊重するための多文化共生社会の実現を推進していくと宣言しています。

海外の友好提携都市(13都市)と友好関係都市(3都市)と提携を結び、正式な友好提携都市数では、現在、日本の自治体で最も多い都市数です。

特定非営利活動法人 泉佐野地球交流協会(ica)

国際交流から地球交流へ

1990(平成2)年に任意団体として設立、その後NPO法人化しました。外国人住民と日本人住民の交流を促進し、共に地域社会を築いていく活動を展開しています。特に日本語教室の運営や国際交流イベントの開催など、多岐にわたる事業を通じて、外国人住民が地域社会の一員として活躍できる環境づくりに貢献しています。「国際交流」の枠組みを超え、国境を越えて交流する「地球交流」という考え方を大切に、事業を通じて外国人住民を「支援の対象」としてではなく、共に地域を創る「地球市民」として捉え、多角的な活動を展開しています。この「地球市民」として共に地域を築くという理念は、現在まで多くの会員に受け継がれてきました。



日本語教室は共助の仕組み

一人ひとりに寄り添ったマンツーマン形式の日本語教室を運営しています。日本語を学び、日本の社会に溶けこむための絶好の場となっています。日本での生活が長い外国人住民が、新しく来日した方をボランティアとして支える「共助」の姿も見られます。また、日本語を教えたい人のために、定期的に「日本語指導者養成講座」を開催しています。



特定非営利活動法人
泉佐野地球交流協会(ica)



03 まちづくり

市民自治によるまちづくりの視点から

危機管理課、外国人住民の声

危機管理課

泉佐野市消防団 国際分団(多言語サポートチーム)

台風により関西国際空港の連絡橋が停止し、外国人旅行者が泉佐野駅に滞留した経験や、市内の外国人人口が約4%まで増加している現状を背景に、災害時に外国人住民や旅行者を多言語で支援する必要性が高まり、2025(令和7)年4月から泉佐野市消防団の中に「国際分団(多言語サポートチーム)」が発足しました。本チームは泉佐野市消防団の特別職公務員として位置づけられ、法的根拠を

持つ公的立場で活動しています。構成は多言語でコミュニケーション可能な外国人、日本人で構成されています。市職員7人、市民2人の計9人で、日本語を含め最大11カ国語に対応しています。災害時は多言語による案内や生活支援、情報提供を行い、平時は月1回、台風や地震津波などを学習し、防災理解の促進につなげています。

外国人住民の声(友好提携都市から泉佐野市職員として勤務中)

スムーズな関係づくりは、挨拶から チョウ カンさん(中国出身 日本で暮らして8年目)

市内に長期定住の意向です。山梨県甲府市で日系企業に勤務した後、泉佐野市に家を購入し長期的に日本で生活していく意思を持っています。妻は最近来日し就業しており、現在妊娠中です。今後は日本で子育てを行うことを希望しています。将来的な家族計画としては、妻の母とは同居も検討しています。地域との関係では、犬の散歩を通じて近隣住民と日常的に挨拶や交流を行っており、出張時には手土産を渡すなど、良好な近隣関係を築いています。



デジタル機器を活用 ヴォー ソン ヤンさん(ベトナム出身 日本で暮らして約4か月)

およそ2年間の在留を予定しています。日常生活では、りんくう周辺で買い物や外食もします。その時はGoogle翻訳を活用しており、ベトナム語で生活することには大きな問題は感じていません。地域のつながりについては、日本人とは対面での交流は少なく、居住するマンション内での接触も限定的です。一方で、ベトナムの友人や家族とはオンライン通話を中心に連絡を取っています。泉佐野市役所での仕事は、SNSで在日ベトナム人コミュニティの投稿の閲覧や泉佐野市を紹介する内容を発信しています。

